



「すべてメイド・インジャパン。
寸分の誤差もない、
精密精巧なパターです」

by名取輝高

アイメトリクス『マージパター』の開発・制作者である名取さんは、1970年7月17日、長野県生まれ。ゴルフ歴は20年。諏訪湖CCのHC4。(株) BRAIN WAVE代表取締役。

原子拡散結合によって、通常の削り出しやロストワックスでは不可能な中空構造のアイメトリクス『マージパター』が誕生。また、異種金属を1つの金属にもできるから、完璧な複合ヘッドも可能。フィッティングを行い、ゴルファー1人1人のデータを基にプログラミングし、あなただけのパターを作る完全オーダーシステムを実施し、1本35万円。レディメイドは30万円。いずれも税別。

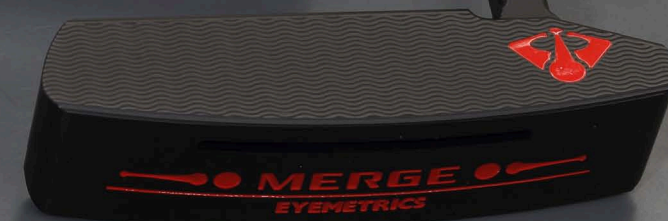
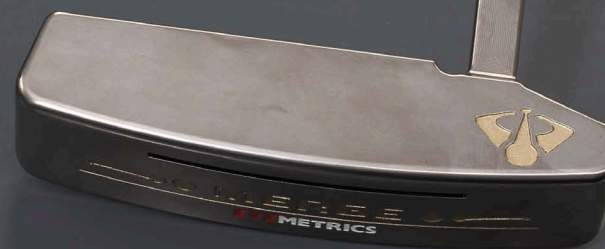
世界初、原子拡散接合による 中空パター

アイメトリクス

MERGE

削り出しなのに中空だから、 抜群の転がりと直進性を誇る

見た目は普通のトゥ・ヒール型のパターだが、その中身は、通常の削り出しなどでは不可能な中空構造。だからこそ、驚くほどの転がりの良さがある。フィッティングしたデータをプログラミングして削る。あなただけの一生もののパター。



文●編集部 写真●北川外志廣 協力●東松苑ゴルフ倶楽部

頭部を3D計測し、立体採寸したデータを基に、高機能眼鏡をオーダーメイドで作る上でのアイメトリクス。そうした眼鏡は世界でただ一つ。倉本昌弘プロを始め、古田敦也氏が、「これほど軽く、これほどびつたりとフィットする眼鏡は他にない」と愛用しているが、そのアイメトリクスの眼鏡フレームは原子拡散接合という非常に高度で特殊な金属加工技術が使われている。ロケットの燃料タンクなども拡散接合によって作られているが、その技術をパターに採用し、世界初の原子拡散接合による中空構造としたのが、アイメトリクスから誕生した『マジパター』である。

このパターを開発・製作している名取輝高さんは、諏訪湖CCのハンデ4。関東アマにも挑戦している競技者だ。その名取さんが自ら『マジパター』を説明してくれる。「アイメトリクスの眼鏡フレームはかけていることを忘れるというほど軽くフィットするわけですが、それは原子拡散接合によって異種金属を原子レベルで合体させて一つの金属にしてしまえること。また、細密

今もありますが、一つの金属にしてしまえるものはありません。フェースをボディにはめ込んだり、ハンダ付けのような溶接を施します。しかし、それでは使っていくうちにズレたり、重量に狂いが生じたり、精巧なものができません。ところが、原子拡散接合なら一つの金属にできるため、設計図通りの誤差がまったくないものが作れます。しかも中空構造にもできる。通常の削り出しパターはそんなことはできません。ロストワックスでの型抜きではさらに細密なことはできない。原子拡散接合を行った金属の固まりを削り出すから、複雑な構造や細密な構造のものを具現化できるわけです。高価でもかかりますが、世界でも類を見ない、ただ一つのパターです」『マジパター』は一見したところ、普通のトウ・ヒール型のパターである。しかし、その性能は、打感、転がりのよさ、直進性など、これまでのトウ・ヒールを凌駕する。しかも1人1人のゴルフファーに寸分の狂いもなくジャストフィットするパターに仕上がるので、世界的な名匠が削り出したパター

な中空構造などができるといった利点もたらしています。ならばそれを使ってパターを作ったら、これまでにないものができると思っただけです。しかも精巧に作れるため、1人1人にびつたりと合ったものが寸分の狂いなく作れる。競技にも参加し、ゴルフ好きの自分が、興味本位で作ったわけですが、打感も最高、球の転がりも素晴らしい。これはいけると、トップアマにも使ってもらったら直進性に優れているといわれ、倉本昌弘プロなどのアドバイザーもいたでいて、ようやく販売できるものになりました」

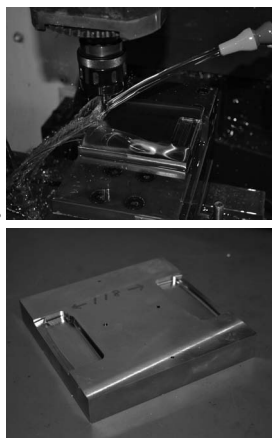
とはいえ、原子拡散接合を行う接合炉は巨大で非常に高価なものであり、小さなパターヘッドでも時間を要する。しかも接合した金属の固まりをネックからヘッドまでが一体となる削り出しを施す。その削り出しは事前使用するゴルフファーのアドレスやストロークを解析してデータ化、その人にジャストフィットするスペックをプログラムミングして削るわけなので、フィッティングから完成までに最低でも45日は要する。

ーと比べても遙かにカップインする。名取さんが言う。

「ブレード部を中空構造にできたことで、重心位置を打点から遠ざけることができている。重心深度が深くなると感性モニターが大きくなり、転がりがとても良くなります。ヘッドの素材はいろいろな金属を使えますが、ステンレスヘッドをベースにしているのは、鉄と違って錆びないからです。ステンレスは鉄よりも固い素材ですが、2枚のステンレスを原子拡散接合によって一つの中空にした塊にして削り出し、中空構造にできたため、軟鉄のような柔らかい打感が得られます。なので、100年、2000年と永遠に愛用していただけるパターだと自負しています。ステンレスのため、塗装をしない無垢のヘッドを使用していたことも可能です」

そもそも鉄よりも遙かに硬いステンレスを削り出すことも大変なこと。それを原子拡散接合によって中空構造にまでできてしまうのは画期的なことなのだ。

「さらに原子拡散接合によって異なる金属



1 ステンレス、または異種金属の母塊を2枚用意し、片側の母塊に中空域を切削加工。

2 中空域を切削した母塊。これにもう1枚の母塊を重ね、拡散接合炉で接合する。



3 拡散接合した中空域を持つ母塊を削り出してヘッドを作る。

4 トウとヒールを銅にし、ヒットするフェース面を鉄にした異種金属を拡散接合した複合ヘッドも可能。

2カ月で僅か20本しか作れない希少パターンなのである。名取さんの説明は続く。

「異なる金属を組み合わせた複合ヘッドは

を組み合わせることでできるわけで、トウとヒールを銅やステンレスにして、ボールをヒットするフェース部分を鉄にすれば、トウ・ヒールとフェース部分に重量差が出るために、慣性モーメントをととても大きくすることができず。ミスヒットしても真っ直ぐに転がってくれます。パターになりますね」

原子拡散接合の技術を用いれば、いろいろなことができちゃう。ヘッドの形もトウ・ヒール型を第1弾として発表しているが、もちろんマレット型も作れる。完全オーダーメイドだけにゴルフファーの様々な要望にこたえることが可能なのだ。オーダーメイドで1本35万円の『マジパター』だが、決して高くはないと納得できるパターなのだ。



アイメトリクス『マジパター』のお洒落なヘッドカバー。

「マージパター」なら浅めにラインを設定できる。



與良さんが愛用する「マー
ジパター」は1本30万円の
レディメイド。



4mの上りの逆目を入れ、思わずガツポーズ。



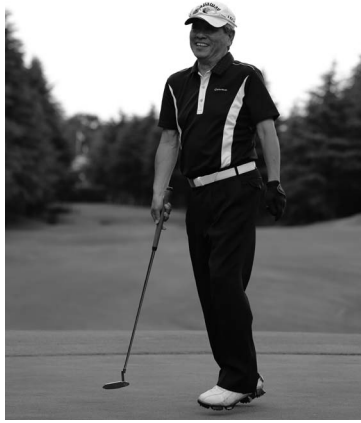
「マージパター」の打感と転がりのよさに驚く。

「マージパターの転がりの良さで、
パット数も大幅に減り、上手くなりました」

by 與良博和

アイメトリクス「マージパター」の愛用者である與良さんは1948年8月25日、東京生まれ。ゴルフ歴は36年。東松苑GCのHC12。50代のときはHC6までになっている。「マージパター」を使ってから、それまでハーフ20パット以上もしていたのが、16パット内に収まるようになった。





パットがいいと、プレーもよくなり、
楽しくなる。

與良博和さんはITを活用したシステムサービスを様々な企業に提供している(株)USSの名譽会長。今年の8月で67歳になるが、最近グループ会社となった子会社の社長を兼任するばりばりの現役である。

仕事でのゴルフも多く、年に40回くらいプレーしている。栃木県の東松苑GCのメンバーで、ハンデは12だが、50代のときはハンデ6までいった上級者だ。元氣凛冽な與良さんが笑顔で語る。

「ゴルフは28歳のときに仕事の関係で始めましたが、ずっとおつきあいという感じでした。この東松苑も30年前にオープンしたときにメンバーになったのですが、月例などに出ることもありません。野球をやっていたので、飛ぶことは飛んだのですが、曲



プレーが若返った。

りのパットとは言えば、転がりが悪いからだからだと凄く切れてしまう。それで3パットになってしまいうわけです。ところがこの『マジパター』ならば下手な私が打ってもスッと転がりよく伸びていくので、上りは打ち切れるし、下りは寄ってくれる。ラインを浅く狙っていきけるんです。当然カップインする確率が上がりますし、3パットもしなくなる。私のゴルフ仲間が私がいっぱつを決めると、『ナイスパット』と言わず、『ナイスパター』って言いますよ(笑) この日も與良さんは11番のミドルホールでティショットをOBにしたものの、3mの下りのスライスを1発で沈めてボギーに収めた。18番のロングホールではド

がるのでスコアは良くなかったですね。それが50歳になって、今からでも上手くなれるぞと、このコースの中島常美プロ、そう、中島常幸プロのいとこですけれど、言われまして、それからまじめに取り組んでシングルにはなったわけですが、シヨットは良くなってでもパターが下手で。まあ、今でもパットさえよければシングルに返り咲けるのではと思っていたわけですよ。そうしたら、知り合いから良いパターがあるぞっていわれて、使ってみたら凄くいいんです」

それが『マジパター』だったというわけだ。値段も高いから最初は試打用を借りて使っていた。しかし、下手だと思っていたパットが入るから手放せない。よって、とうとう自分のものに。與良さんが言う。

「これまでは、大体において、ハーフで20パット以上打ってしまうわけです。しかし、それではどんなにシヨットが良くても70台は出ません。それで、良いパターはないかとどどん買い換えるわけですが、それでもパット数は縮まらない。アメリカの名匠が削り出したというパターも買いました。

ライバー、5番ウッドで2オンを果たし、簡単にバーディを奪っている。

「もともと私はピンパターが好きでいろいろと使ってきたので、この『マジパター』も打ちやすかったですね。試打用を借りたので、フィッティングをしてオーダーメイドしたわけではないのですが、自分に合っていたんですね。ステンレスだというのに、打感はずからかいし、音がいい。フェースに樹脂がインサートされているタイプは打感が柔らかくても音が鈍いでしょう。そうするとタッチが出せない。そうでなくてもタッチに問題があるのに、さらに悪くなってしまう。この『マジパター』は多少高めのいい音が出て、それがタッチを出しやすいい。私は少しシヨットが気味なところもあって、手が動きにくいので、しっかりと強く打たなきゃと思ってしまうミスってしまっているのですが、この『マジパター』は球がすっと転がりよく伸びてくれるので、強くしつかりなんて思う必要がありません。ロングパットも小さなストロークでいいので、芯でヒットしやすい。ミスが少なくなりま

もの凄く高かったですが、それだっただけなら入らないものは入らない。自分が下手なんだから仕方ないかと諦めてかけていたわけですよ。そして、この『マジパター』は入ってくれる。ハーフを16パットぐらいで入られる。今日なんて13パットでした。70台の夢を見させてくれるパターだなと、ありがたく使わせてもらってます」

具体的にはどこがよいのだろう。「とにかくこの『マジパター』は転がりがいいですね。普通のトゥ・ヒール型のパターに見えますが、中空構造がいいんですね。球が伸びていきます。私はパットが下手なので転がりが悪いわけです。これまでは逆目の上りなんて全然届かない。では下



音がいいのでタッチも出やすい。

した。インパクトでの音もいいで、しっかりと打っている気もしますからね」

與良さんはこの『マジパター』にしてグリーンエッジからのチップインも増えた。パットが苦手だったときはウェッジで寄せていたのが、パターで楽に寄せられる。

「転がりがいいから、芝に負けないんです。ライが逆目でも上手く転がってくれますね。チップインは気持ちがいいですし、その後のプレーにも好影響を与えるでしょう。ほんと、いいパターです」

会社を継いでくれた息子さんともゴルフをするという與良さん。ドライバースヨットでは負けてもパットでは勝つたいと意欲を燃やしている。



これまで何本もパターを替えてきた與良さんがようやく入るパターに巡り会った。